

1 単元名

「いろいろながっきの音をさがそう」

2 単元目標

(1) 音色やリズムなどと曲想との関わりについて気付き、楽器の音色に気を付けて演奏したり、呼びかけとこたえを用いてリズムをつくったりする技能を身に付ける。

【知識・技能】

(2) 楽器の音色やリズムの違いが生み出すよさや面白さを見いだして聴いたり、楽器やリズムの組み合わせ方について思いをもったりする。【思考・判断・表現】

(3) 音色とその組合せのよさや面白さを見いだして聴いたり、それらの特徴を生かして表現したりする学習を楽しみ、楽器の音色への興味・関心を広げる。

【主体的に学習に取り組む姿勢】

3 目標項目との関連

「書く」ステージ3（教科につながる初歩的な学習）

e「観察したことを記録する簡単な文章を書く」

4 児童生徒の実態について

本学級は、男子6名、女子6名の計12名である。中国にルーツを持つ国際結婚家庭の児童が半数以上を占め、そのうち数名の児童には日本語力に課題が見られる。ただ、どの児童も話しをすることが大好きで、積極的に人と関わろうとする姿勢が見られる。

音楽科の授業では、教材曲に興味を持ち、意欲的に授業に取り組む児童が多い。教材曲との出会いの場面や鑑賞の時間には、楽曲のもつよさや面白さなどについて、気づきや思いを積極的に発表しようとする姿勢が見られる。

しかし、児童によっては説明するための語彙の力に課題があり、周囲に上手に伝わらない場面もよく見られる。また、鑑賞活動などを通して感じ取った内容を、ワークシートに記入して表現することを苦手とする児童も複数名いる。音楽のイメージを言語で表すことが難しいことも、大きく影響していると考えられる。

児童が音楽を通して気づいたこと、感じたことを言語化するためには、個々の状況に応じた支援が必要であると考えている。

5 単元について

本単元では、鑑賞・音楽づくり・歌唱を通して、身近な打楽器の音色の特徴や違いをとらえ、表現の仕方を工夫する学習を進める。

本単元では「だがっきパーティー」という楽曲を中心の題材として取り扱う。この作品は様々な打楽器の音色に親しむために作曲され、子どもたちにとって身近な7種類の打楽器が用いられている。鑑賞したことをもとに交流を行い、打楽器に親しませると同時に理解を深めさせた

いと考えている。

本単元を通して、「書くこと」と「話すこと」の二つの表現活動に取り組む。ワークシートに知っている楽器や楽曲に使われている楽器、それらの感想・気づきを書くことにより、学んだことを整理することができる。さらに、ワークシートをもとにして感想・気づきや自分のイメージを話すことにより、より確かな知識の定着が期待できる。

本学級では積極的に人と関わろうとする児童が多く、表現活動にも意欲的に取り組んでいる。まずは、その意欲を生かす場面設定に努めたい。そして、自分の感想や気づき、音楽のイメージを的確に言語化して伝えられる経験を、自信へとつなげたいと考えている。

6 日本語支援について

日本語力に課題がある児童に対して、二つの手立てを用意している。

一つ目はヒントカード「音楽ことばの木」の活用である。楽曲から感じ取った感想やイメージを言語化することは難しい。そのため、自分の気づいたことや感じたことに近い言葉を選んで、書いたり話したりできるよう、イメージに関する言葉を視覚化した「音楽ことばの木」を提示し、語彙の選択に悩んでいる児童への支援の手立てとする。

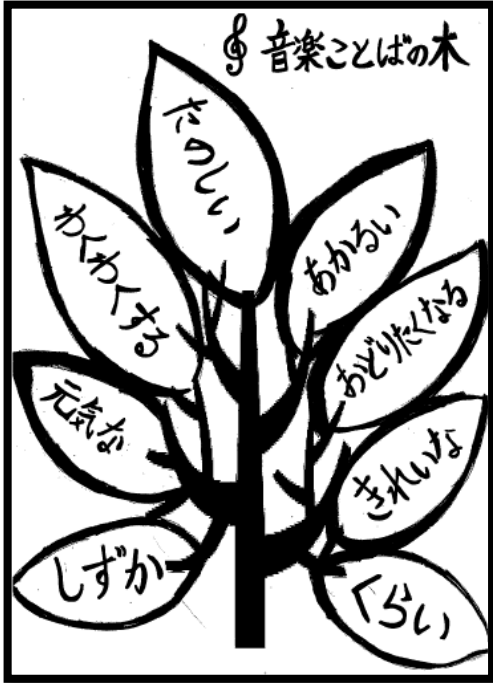
二つ目はモデル文の活用である。「〇〇は、△△△△という音がする。」「〇〇は、□□□□（のような）感じがする。」というモデル文を提示し、それぞれの楽器の特徴やイメージについて言語化するための支援を行う。

7 単元構成

時数	【学習活動】	【ポイント】 ○日本語支援の視点 ◇バイカルチュラルの視点	【備考】
第1時	「打楽器の音色やリズムに気を付け聴こう」 ●どのような楽器の音がするのかに気を付けて鑑賞曲「だがつきパーティー」を聴く。 ●聴こえた楽器の名前と、その音がどのように聴こえたのかを、ワークシートに書き、発表する。 ●教科書の挿絵を見ながらもう一度鑑賞曲を聴き、楽器の名前と音を確認める。	○感想を書くときの支援として「音楽ことばの木」を提示する。 ○モデル文「〇〇は、△△△△という音がする。」を活用して楽器の特徴を捉えさせる。 ◆身近な生活と関連させて交流させることで、学びと自身の生活を結びつけさせる。	対面での実施
第2時	「曲全体を味わってきこう」 ●楽器の音を生かした楽曲の構成や演奏方法の効果について気づかせる。 ●気づいたことや楽器や楽曲のイメ	○モデル文「〇〇は、□□□□（のような）感じがする。」を生かして発表しやすいように支援を行う。 ○「音楽ことばの木」を活用し、	対面での実施

	ージを交流する。	イメージを言語化させる。	
--	----------	--------------	--

8 資料



音楽ことばの木

だがつきパーティー

♪だがつきパーティーをさいてみよう♪

知っているがっきの名えをかきましょう。

きこえてきたがっきの音をかきましょう。

♪さいごまでさいてみましょう♪

きづいたことやかんじたことをかきましょう。

2年 ばん なまえ ()

ワークシート



「だがつきパーティー」

鑑賞の様子

9 考察

【成果】

- 「音楽ことばの木」を活用することにより、日本語力に課題のある児童も自分の感想やイメージを言語化することができていた。
- モデル文を活用した発表は、非常に効果的であった。課題のある児童は言葉に詰まる場面もあったが、ワークシートとモデル文を活用して、ゆっくりとだが発表することができていた。
- ◆自分の感想やイメージを発表できたことが、それぞれの自信につながっていた。また、友人の発言に大きくうなずいて共感を示す児童も多く、学級全体としての学びを深めることにつながっていた。

【課題】

- 楽器の音を表すため、子どもたちは擬音（トントン・カンカンなど）を用いていた。「音楽ことばの木」には、擬音を集めたものがあつたら、さらに有効だったと考えられる。
- 本学級の国語科では「文と文をつなぐ言葉（まず、そして、最後に、など）」を活用していることを後から知った。事前に知っていれば、複文での効果的な表現につなげることができたと考えられる。
- ◆友人のイメージにどうしても共感できず、自分の意見にこだわる児童がいた。次の学年に向け、「他の価値観を受け入れる」という経験を積ませていく必要がある。

【まとめ】

ヒントカード「音楽ことばの木」やモデル文という支援方法は非常に効果的であった。本学級の児童の意欲・積極性を損なうことなく、適切な支援を行い、自信をつけさせていくことにつながったと考えられる。

一方で、他の教科での児童の様子や指導方法などについて、教員間で情報共有や交流を行うことで、学校全体としての横断的・総合的な指導につなげていくことができるのではないかと考えた。